



めない私のため、代わりに幾つかの資料を収集し、その上大事な部分をマーカーで印までつけてくださった。その1行を読むだけでも私にはかなりの時間を要したが、時間はかかっても新たに知る韓国の竈神はとても興味深く面白かった。お会いした時に先生は資料の内容も説明してくれた。また論文の著者に電話で尋ねてくれたりもした。何より竈神に関する先生の考えや幼い頃の記憶なども話してくださったことは、私のなかで韓国の竈神だけでなくベトナムの竈神を考えるとても重要なものとなった。国立民俗博物館の鄭然鶴先生は、韓国の基本的な信仰をよく分かっていたいなかった私のため、韓国の家庭信仰について写真や図を描いて丁寧に説明してくださった。最後は先生が収集した写真などを私に提供し、使用の許可もくださった。韓国の家庭に入り台所の写真を撮るなど難しい私にとっては貴重な資料であり、先生の寛大さに感謝である。

聞き取り調査は、ソウルでは仏教美術が専門の池美玲さんが同行してくれた。彼女の祖母が竈神を祀っていたため話を聞きたいとお願いしたのだったが、美玲さんはソウル市内で調査のできそうな村を調べてくれていた。聞き取りができるか分からないけど行ってみようということで、2人でアンコル村に向かった。幸運にも村の巫覡、金虎女さんに出会い、これまでの生い立ちを伺い、竈神を祀る様子を見せてもらうことができた。美玲さんとは初対面であったが年齢が近いこともあり親しくなり、今回のソウルでの大切な出会いになった。

ソウル以外には済州島でも調査を行った。歴史民俗資



アンコル村の巫覡 金虎女さん

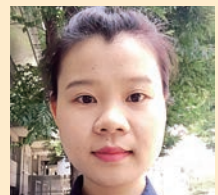
料科学研究科の先輩方の紹介のおかげで済州島の人々、シンパン、済州島研究者の高先生にもお会いし話を聞くことができた。それだけでなく、車の手配から済州島滞在の予定まで組んでくれたことは本当に感謝である。

今回の訪問で韓国竈神信仰の実態の一端を知り、ベトナムの竈神について改めて考える機会を得たことは大きな成果である。そして何より感動したのは出会った全ての方の親切さである。漢陽大学の東アジア文化研究所、ソウルや済州島で調査の協力をしてくださった先生方や皆さま、歴民の先輩方、忙しいなか丁寧に時間を取って関わってくださったことは本当にありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。最後に派遣研究員という機会をいただき、お世話になった非文字資料研究センターの皆さまに心よりお礼申し上げます。

## 中国沿岸漁民の海洋知識と利用に関する調査 中山大学非物質文化遺産研究センターへの派遣調査 及び滞在記

俞 鳴奇

(歴史民俗資料科学研究科 博士後期課程)



2018年1月10日から30日まで、私は非文字資料研究センターの派遣研究員として、中国・広州にある中山大学非物質文化遺産研究センターを訪問し、中国沿岸漁民の海洋知識と利用状況についての調査を行った。広州は南に海がある綺麗な大都市である。また、古代の百越の地であり、秦始皇が中国を統一して現在の広州に南海郡番禺県を設置した。古代から中国の南海貿易の中心地として発展し、唐代半ばの741年には最初の市舶司<sup>(1)</sup>が設置された。昔から海外と交通するうえで重要な地域であり、海外との交流及び商業が盛んであった。そ

のため、広州の地方誌の中で海外交通や貿易、漁業などの内容が多く記録された。

中山大学は広州大都市の中にある静かな歴史と人文を持つ大学である。今回、指導教授である中山大学非物質文化遺産研究センターの王宵氷教授にご指導をいただいた。王先生から漁村研究についての論文を紹介していただき、図書館と資料室の利用法を教えてください資料調査に向かった。中山大学図書館で「中国方志庫」というデータベースを利用し、この中で清時代の漁船、漁場、漁労種類などを記録された資料を発見した。だが、非物



写真1 中山大学

質文化遺産研究センターの資料室は主に文芸、戯曲、非物質文化遺産の資料で、漁業についての文献を見つけることはできなかった。

また、中山大学非物質文化遺産研究センターの主任・宋俊華教授のご指導で、広州図書館の広東歴史文献書目データベースを閲覧した。広州図書館は広州の地方資料を多く収蔵している。「一带一路」、「広州大典」、「広東歴史文献書目」、「広州人文数字図書館」のデータベースを利用して自身の研究に関する資料を収集した。



写真2 広州図書館

後日、漁村での調査を行うために、1月18日から海南省の鶯歌海鎮、福建省の平潭県、青島の黄山村を訪問した。鶯歌海鎮を訪れるのは今回で3回目になる。地元の人たちはとても親切だ。調査時は海漁を解禁しており、漁民は朝10時頃に海を出て定置網漁や刺網をし、午後4時頃に帰ってくる。漁師の家族は海辺で漁師の帰りを待ち、漁船が海岸についたら、家族みんなで牛に乗せ漁獲物を船から砂浜に運ぶ。その後、漁獲物を整理して、良いものはその場で売る。売れ残りは干物にするか肥料にする。私も共に漁獲物の整理を行い、その時に

漁師や漁師の家族と様々な話をした。漁師の生活、漁村についてさらに理解を深めた。他にも砂浜を歩きながら、手が空いた漁師を見つけて、聞き取り調査を行った。



写真3 漁獲物を仕分けしている様子

福建省平潭県は福州市に属する島である。以前、福州市には船でしか渡れなかったが、近年、福州と繋がる橋を作ったため、島民の生活は便利になった。また、政府の支援で観光業が発展している。

島内の家はほぼ石で作った石屋である。石は島内の山から採ったものだ。石屋は防風効果が高いため、現地の環境に適している。平潭県はイガイ養殖が主な産業である。私は平潭県の漁港と養殖漁場に行き、漁師4人に聞き取り調査を行った。

青島市は私の母校中国海洋大学の所在地である。黄山村は青島の有名な山、崂山（ロウサン）の麓の小さな村である。今回、私は黄山村の人にどのようにクラゲを漁獲するかについて調査した。黄山村のクラゲ漁は昔から行われている。8月から10月までクラゲが黄山村の海域にやってくる。この季節になったら、船2艘で、違う方向からクラゲを追い込み、タモ網で獲る。

今回の調査は中山大学非物質文化遺産研究センターの王宵氷教授、宋俊華教授にご指導をいただいた。またチューターの陳熙さん、神奈川大学非文字資料研究センターの内田青蔵先生、事務の成田紅音さんにたくさん助けていただき、自分の研究に関する資料をたくさん集めて、非常に有意義な調査ができた。お世話になった皆様に心よりお礼申し上げます。

〔注〕

(1) 市舶司（しはくし）は、中国において唐代から明代の間設置された、海上貿易関係の事務を所管する官署のこと。